

## 国民スポーツ大会の概要

## 1 主催

(公財) 日本スポーツ協会 文部科学省 開催地都道府県

## 2 目的

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするを目的とする。

## 3 開催時期及び開催期間

- (1) 冬季大会：1月～2月、5日間以内
- (2) 本大会：9月～10月、11日間以内

## 4 実施方式

- (1) 冬季大会と本大会の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催される。
- (2) 上記両大会で実施した全正式競技の男女総合成績1位に“天皇杯”、女子総合成績1位に“皇后杯”が授与される。

## 5 実施競技（競技数）

区分		第74回(2019年) ～ 第77回(2022年)	第78回(2024年) ～ 第81回(2027年)	第82回(2028年) ～ 第85回(2031年)	
本大会	正式競技	毎年実施	36	36	36
		隔年実施	2	2	2
		開催地選択	休止	休止	休止
		計	38	38	38
	公開競技	5	7	9	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			
冬季大会	正式競技	1	1	1	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			

※ 第82回～85回大会の実施競技は別紙のとおり（実施競技は4年ごとに見直し）  
隔年実施競技（馬術、なぎなた）については、本県大会ではなぎなたを実施

## 6 大会規模等（出典：日体協発行「Sports Japan」による。）

- ・国体参加選手約2万人
- ・観客動員約60万～70万人
- ・大会開催経費約100億～150億円
- ・経済効果約500億～600億円

[第77回(2022年)国体への長野県選手団派遣人数：冬季大会(栃木県・秋田県)203人、本大会(栃木県)525人]

## 7 その他

- (1) 戦後の混乱期中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催された。
- (2) 各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして行われている。(※平成23年(2011年)からは、スポーツ基本法第26条に定められている。)

なお、本県では、昭和53年(1978年)に第33回大会を「やまびこ国体」として開催し、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目開催となる。

## 第 82 回大会（2028 年）～第 85 回大会（2031 年）における実施競技について

### 1 本大会

#### (1) 正式競技 : 計 38 競技

##### ア 毎年実施競技 : 計 36 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車競技、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

##### イ 隔年実施競技 : 計 2 競技 (※ 下記種目のうち、1 種目を実施)

馬術、なぎなた (本県)

※ 「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

#### (2) 公開競技 : 計 9 競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック、スポーツチャンバラ、ダンススポーツ

#### (3) デモンストレーションスポーツ

上記「(1)正式競技」及び「(2)公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日スポ協加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

例：ウォーキング、ソフトバレーボール、スポーツ吹矢 等

#### (4) 特別競技 : 計 1 競技

高等学校野球

### 2 冬季大会

#### (1) 正式競技

##### ア 毎年実施競技 : 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

#### (2) デモンストレーションスポーツ

# 全国障害者スポーツ大会の概要

## 1 主催

(公財)日本パラスポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県・市町村、その他関係団体

## 2 目的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

## 3 開催時期及び開催期間

国民スポーツ大会本大会の直後を原則として、3日間（例年、概ね10月中）

## 4 参加資格

毎年4月1日現在で13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

## 5 実施競技（予定）

区分		競技数	競技名 (身：身体障がい者、知：知的障がい者、精：精神障がい者)
正式競技	個人競技	7	・陸上競技（身・知） ・アーチェリー（身） ・卓球（身・知・精）[サウンドテーブルテニス（身）を含む] ・ボウリング（知） ・水泳（身・知） ・フライングディスク（身・知） ・ボッチャ（身）
	団体競技	7	・バスケットボール（知） ・ソフトボール（知） ・サッカー（知） ・バレーボール（身・知・精） ・車いすバスケットボール（身） ・グランドソフトボール（身） ・フットソフトボール（知）
オープン競技		広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施	

※ 正式競技については、全国障害者スポーツ大会委員会で協議し、開催年の5年前までに日本パラスポーツ協会が決定。

## 6 大会規模等

- ・選手 約3,500人
  - ・役員 約2,000人
  - ・観覧者 約43,000人
  - ・大会開催経費 約20億円
- [第22回（2022年）とちぎ大会への長野県選手団派遣人数：83人（選手44人、役員39人）]

## 7 その他

- (1) 全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成4年（1992年）から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。
- (2) 本県では、昭和53年（1978年）「やまびこ国体」の開催後に、「第14回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）」を開催して以来の開催となる。

## 全国障害者スポーツ大会実施競技等について

### 1 競技実施区分

競技ごとに、①性別区分、②年齢区分(個人競技のみ)、③障がい区分(障がい種別、程度)が定められている。

○年齢区分 身体障がい者 1部(39歳以下)、2部(40歳以上)  
 知的障がい者 少年(19歳以下)、青年(20歳～35歳)、壮年(36歳以上)  
 精神障がい者 年齢区分なし

### 2 障がい種別実施競技及び主管団体

区分	障がい区分 競技名	肢体 不自由	視覚 障がい	聴覚 障がい	内部 障がい	知的 障がい	精神 障がい	県主管団体 (先催県の例)
個人	陸上競技	○	○	○	○※	○	×	陸上競技協会
	水泳	○	○	○	×	○	×	水泳連盟
	アーチェリー	○	×	○	○※	×	×	アーチェリー協会
	卓球	○	○	○	×	○	○	卓球連盟
	フライングディスク	○	○	○	○※	○	×	フライング ディスク協会
	ボウリング	×	×	×	×	○	×	ボウリング連盟
	ボッチャ	○ 重度	×	×	×	×	×	ボッチャ協会
団体	バスケットボール	×	×	×	×	○	×	バスケット ボール協会
	車いすバスケットボール	○	×	×	×	×	×	
	ソフトボール	×	×	×	×	○	×	ソフトボール 協会
	グランドソフトボール	×	○	×	×	×	×	
	フットソフトボール	×	×	×	×	○	×	
	バレーボール	×	×	○	×	○	○	バレーボール 協会
	サッカー	×	×	×	×	○	×	サッカー協会

※ 内部障がい：ぼうこう又は直腸機能障害

### 3 実施種目

競技	種目
陸上	・競走 50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラローム、4×100mリレー ・跳躍 走高跳、立幅跳、走幅跳 ・投てき 砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ビーンバッグ投
水泳	・自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ(各 25m、50m) ・4×50mフリーリレー、4×50mメドレーリレー
アーチェリー	・リカーブ (50m・30m、30mダブル) ・コンパウンド(50m・30m、30mダブル)
卓球	・卓球 ・STT(サウンドテーブルテニス)
フライングディスク	・アキュラシー (5m、7m) ・ディスタンス (座位、立位)